

和歌山県立医科大学附属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科

当科の特徴

講座は、本学設立と時を同じくして1945年に開講され、内分泌代謝糖尿病分野を中心に消化器、血液、呼吸器など広く内科学における教育・研究・診療に携わってきました。この方針は、現在においても引き継がれています。

臨床診療領域においては、大学では多くのスタッフが内分泌代謝糖尿病分野の専門医のみならず、総合内科、消化器病、消化器内視鏡などの専門医を同時に有しており、学生や若手医師の教育・指導においても糖尿病代謝内分泌を柱に内科疾患全般にわたる高度な専門性と総合的医療の両立を行うことができる人材養成を行っています。

また、当講座の県下7つの関連公立病院においては、総合内科臨床を網羅した、すそ野の広い研修を臨床の最前線で経験を積みながら取得が可能となっています。

大学病院と関連病院の両者においてバランスよ

く研修することで、選択領域の高い専門性と一般内科医に求められる広い汎用的臨床力の両立を目指していただきます。

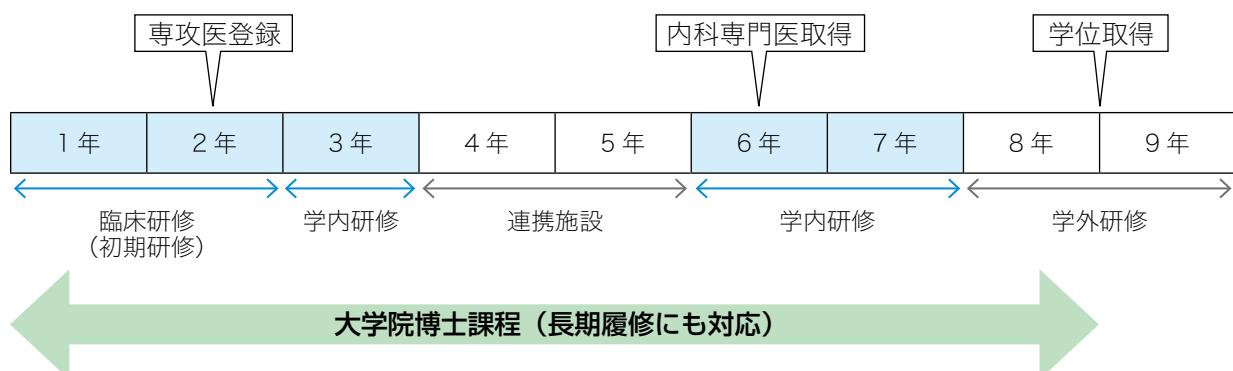
また、研究面においては、膵β細胞の分子機構や糖尿病発症に関連する遺伝因子の解明をはじめとして、甲状腺クリーゼやIgG4関連疾患など臨床研究から基礎研究まで幅広い研究を推進しています。



ローテーション例

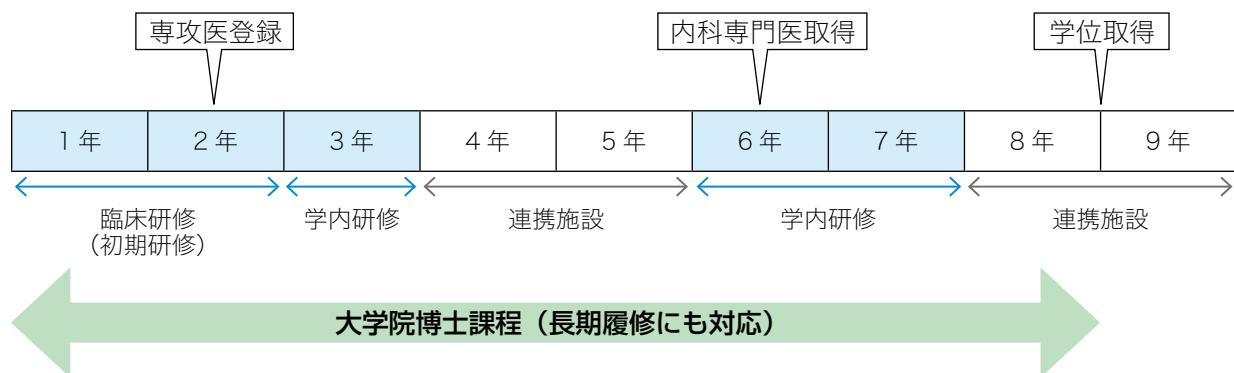
一般枠コース

※ は学内研修



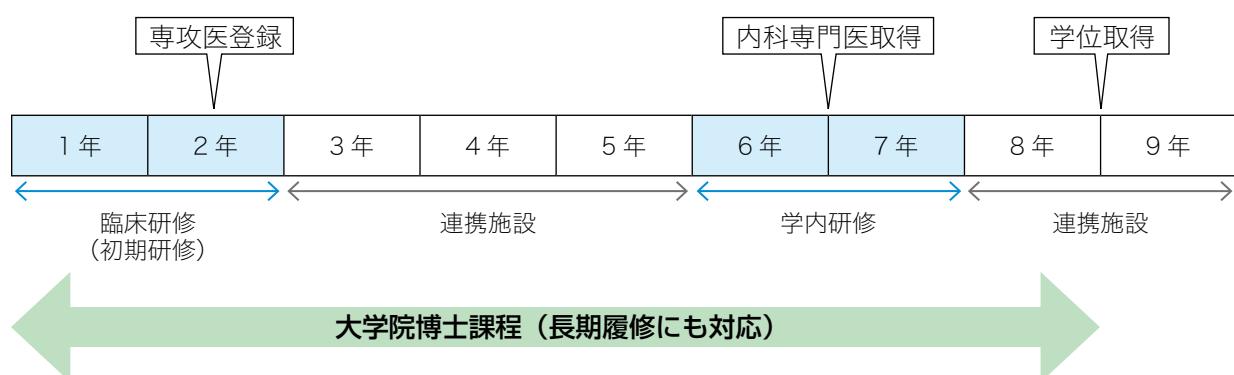
- 初期研修終了後、原則1年間は大学病院において、糖尿病・代謝内分泌領域疾患に対する基礎診療能力を培い、以降連携施設で専門外来・入院患者治療を一定程度自立して行うことができる臨床能力を養う。
- 卒後4年目以降は、原則2年間は連携施設にて研修を行う。各連携施設ごとに地域性や特徴、取得可能な専門医の差異があるため、各個人と協議の上、研修施設を選定する。連携施設では専門領域研修に加えて、より広い内科領域疾患の基礎知識と必要な診療技術・手技の習熟を目標とし、内科医としての診療能力の向上に努める。
- 卒後6年目以降は、大学病院での研修・連携施設での研修・国内留学等各個人の希望に沿い対応する。
- 大学院博士課程は、原則研修期間のどの段階においても適時個別に対応が可能である。

ローテーション例 県民医療枠コース

※  は学内研修

- 初期研修終了後、基本的な研修カリキュラムは前項一般枠コースに準じる。
ただし、連携施設は和歌山県内の関連病院に限定する。
- 大学院博士課程は、原則研修期間のどの段階においても適時個別に対応が可能である。

ローテーション例 地域医療枠コース

※  は学内研修

- 初期研修終了後、原則3年間は県の選定した地域研修病院にて、一般内科・総合診療内科医としての診療技術の向上に努める（研修病院は当講座の連携施設に限定されない）。
- 卒後5年目以降、2年間は大学病院において、糖尿病・代謝内分泌領域疾患に対する基礎診療能力を培い、専門外来・入院患者治療を自身で完結することができる臨床能力を養い、専門医取得を目標とする。
- 大学院博士課程は、原則研修期間のどの段階においても適時個別に対応が可能である。

教授からのメッセージ



松岡 孝昭 教授

内科学第一講座は、患者さんの生涯にわたって全身を診るという理念のもと、糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症などのcommon diseaseである代

謝疾患から、比較的希少ではありますが全身の広範囲にわたる内分泌疾患まで、幅広い疾患群を治療対象としています。現在、指導医層も充実しており、代謝・内分泌両疾患をバランスよく診療できる講座となっています。高い専門性を有し、広く内科疾患を診ることのできる医師、和歌山県の医療に貢献できる医師を共に目指しましょう。

研修目標・経験目標

大学病院研修

糖尿病・代謝・内分泌を柱に内科疾患全般にわたる高度な専門性と総合的医療の両立および学術的視点からの深い考察を行うことができる人材養成を目標とする。

糖尿病領域においては、糖尿病の病態および合併症の正確な診断・評価と、患者の個別性を理解した上での適正な治療方針策定ができること、さらに糖尿病急性期合併症への緊急対応および慢性期管理／患者教育の適正なマネジメントを実践できることを目標とする。

内分泌疾患領域においては、甲状腺・副甲状腺・間脳下垂体・副腎・性腺の機能評価および機能異常症の病態を理解し、各内分泌臓器疾患を適正かつ包括的に診断・治療できることを目標とする。



連携施設研修

内科一般領域で必要とされる感染症や生活習慣病を含むcommon diseaseの正確な診断と適正な治療が自立して行えることを目標とする。さらに、内視鏡、気管支鏡、頸部／甲状腺／腹部超音波検査、髄液検査、骨髓穿刺、中心静脈穿刺等の内科医に必要な基本的検査・治療手技の習熟に努める。また、主に地域医療の中核病院において、病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療への理解を深め、総合診療医として内科専門医に求められる役割を実践する。学術活動・教育活動内科専門医研修においては単に症例を経験することにとどまらず、これらを学術的に深めてゆく姿勢が重要である。内科学術集会や糖尿病学会、甲状腺学会、内分泌学会、関連研究会に年2回以上の参加と、年1回以上の演題発表を行う。

卒後3年目以降には、上級医指導の元、初期臨床研修医あるいは医学部学生の指導に積極的に関わっていく。また、患者教育・メディカルスタッフ教育等にも関わり、チーム医療におけるリーダーとしての自覚を育成する。



当科で取得可能な専門医と指導体制

研修施設	新内科専門医	糖尿病専門医	内分泌専門医	甲状腺専門医	消化器専門医
和歌山県立医科大学附属病院	○	○	○	○	○
和歌山ろうさい病院	○	○	○	○	○
済生会和歌山病院	○	○			
公立那賀病院	○	○			○
ひだか病院	○				
紀南病院	○	○			○
橋本市民病院	○	○			
新宮市立医療センター	○			○	
那智勝浦町立温泉病院		○			



和歌山ろうさい病院



済生会和歌山病院



公立那賀病院



ひだか病院



紀南病院



那智勝浦町立温泉病院